ている。しかし，福島県内では，年平均的にすべて過湿状態にある。

なお，蒸発散位の高度変化を第7図に示す。前述の通り，蒸発散位と年平均気温との相関係数は＋0.98と大変よい相関を示す。従って，蒸発散位と高度との相関係数も－0.94と有意な相関関係を示し，両者の関係を一次式で近似すると

$$E(mm)=-0.182\times H(m)+714$$

と表わされる。ここではEは蒸発散位を示す。

すなわち，福島県内のスケールでは，ほぼ気温が海抜高度に依存しているので，気温に大きく依存する蒸発散位は，気温と同様，海抜高度の一次式でほぼ近似することができる。

4. 風向，風速の分布

第8図に年平均風速と，年平均最多風向の分布を示す。これをみると，ほぼ全域で西風成分が卓越していることがわかる。これは年平均最多風向が冬季の季節風に大きく依存しているためで，福島県内では6月から8月頃にかけて比較的南成分，または，東成分の風向が卓越する。

一方，風速の分布では，比較的風通しのよい高所で（鷲倉では3.7 m/sec）強く，他で1.6 m/sec程度となっている。福島県内では，3月から5月にかけて月平均風速が強く，7月から10月にかけて弱くなる年変化が一般的である。3月から5月にかけて月平均風速が強くなる原因は，この期間福島付近を通過する低気圧が最も多いこと，太陽高度が高くなりつつあり，地面の昇温で大気成層が不安定になり，上層の運動量を活発に下層へ輸送することによる。この運動量の鉛直輸送は平地の地上風の日変化でも顕著で，日中，相対的に強風となり，夜間，相対的に弱風となるのは，日中，日射による地面付近の昇温により，対流混合が活発化し，運動量の鉛直輸送が行なわれるためである。

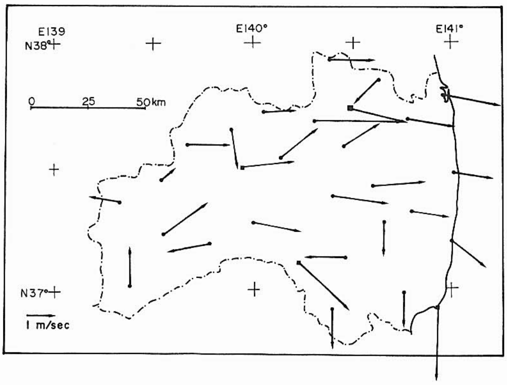

図8　年平均風速と年平均最多風向の分布

5. 降雪，積雪の初，終日の分布

降雪現象の初日の1941年から1970年までの平年日の分布を第9図に示す。山岳地帯では11月10日頃，会津地方は11月20日頃，奥羽山脈より東部では11月30日頃，太平洋岸では12月10